第25回関西広域連合協議会に係るフォローアップ(令和6年3月末日時点)

番号	標題	意見要旨	関西広域連合の考え方・対応
1	愛称のご提案	今回委員に任命され、初めてこの協議会の存在を知った。関西の各府県のさまざまな人が意見を交換する素晴らしい「場」「とりくみ」であるし、またそうでなければならぬと思う。参加するわたしたち、関係者だけでなく広くこの「場」「とりくみ」を知ってもらえるよう、まず「愛称」を考えることを提案する。	ご提案の「愛称」もアイデアのひとつですが、まずは、協議会の関係者だけでなく、多くの方に協議会の活動を知っていただけるようにすることが重要であると思うので、協議会について、その取組と併せて周知してまいります。
2	SDGs、プラスチック対策、スポーツツーリズム等について	関西広域連合におけるSDGsの達成及びプラスチック対策に向けた施策としては、海洋環境学習や海洋保護に向けた施策がより必要と感じる。 地球温暖化対策に関しては、啓発にとどまらないより本格的なシステム(まち)づくりが必要と感じる。	関西広域連合では、令和元年5月に「関西プラスチックごみゼロ宣言」を発出し、ごみを出さないライフスタイルへの転換を目指し、3Rの推進やプラスチックごみの散乱・流出抑制などプラスチックごみゼロに向けた取組を、関係自治体が連携して進めています。 環境学習に関して、徳島県の吉野川河口の干潟で過去3回にわたり実施した自然体験教室では、生息している絶滅危惧種をはじめとする多種多様な生物や、漂着ごみの清掃活動等による環境保全の取組等について、地域の環境保全団体との連携のもと、参加者に学んでいただきました。 また海洋保護に関して、「播磨灘とその沿岸」などの海域も含め、関西地域において生物多様性保全上重要な場所である「関西の活かしたい自然エリア」として選定し、エコツアーモデルコースの作成等を通して自然エリアの生物多様性の保全と持続可能な活用を目指しています。 引き続き、構成府県市とともにSDGsの達成に向けて、プラスチックごみ対策の取組を進めてまいります。 地球温暖化対策に関して、「システムづくり」という観点では、国において2025年度までに、自治体と企業等の連携による脱炭素先行地域を100か所つくろうとされており、これまで関西からは、京都市や大阪市、堺市をはじめ13の地域が選ばれています。関西広域連合としても、脱炭素社会の実現に向けた機運醸成を図るとともに、新たな連携が生まれる機会の創出として、住民や企業、団体、行政など多様な主体に参画いただく「関西脱炭素フォーラム」を開催しています。
		万博、ワールドマスターズのレガシーとして、文化・スポーツを用いた地域活性化をイベント以後も継続できるような手だてが必要。	大阪・関西万博のレガシーとして、地域活性化の根を残せるよう、万博会場内や各地における様々なイベントを万博後も実施するように検討していくとともに、ワールドマスターズゲームズ2027関西大会後も開催地の資源を有効活用して、開催地を中心とした観光名所や地域のPRイベント等を実施するように検討していきたいと考えています。
		連合参加地域全域におけるスポーツツーリズム促進に向けた、各地でできるスポーツの見える化が必要。	スポーツ大会やイベント等の情報をホームページで発信し、地域の方々が参画しやすいよう取り組んでまいります。

番号	標題	意見要旨	関西広域連合の考え方・対応
3	歴史文化を生かすための人材育成について	<p>歴史と文化を深く幅広く理解した上で新たな形を創出する人材の育成が急務であると考えます。関西のもつ文化的歴史的なポテンシャルを発揮することは、国際社会が求める持続可能な観光はじめ、一見文化とは関係が薄いと思われるようなビジネスの現場においても大きく貢献する。とりわけ世界から注目される日本の伝統文化に込められた総合的な知と美の感性は、関西の歴史と多様な地域性のもと築き上げられてきた大切な資源。歴史的な建造物や伝統的な文化が急激に日々失われつつある現状は、関西の独自性と、世界における存在感、また新たな価値を生むための大切な資産を失っているという認識に立ち、抜本的かつ戦略的な対策を講じるべきと考えます。</p>	<p>人材の育成には、文化の担い手だけではなく、世の中全体が文化に対して関心を持ち裾野を広げることが重要です。関西広域連合でも小中学生を対象に、歌舞伎、日本舞踊の鑑賞や獅子舞などの民俗芸能体験を各構成府県市で取り組んでいます。また、関西の魅力でもある生活文化や生き方、心根の継承についても、総力を挙げて取り組んでいく必要があると考えています。</p>
4	ギャンブル依存症を予防する啓発の強化	<p>関西広域連合12年間の取り組みの「課題解決に向けた広域医療体制の構築」に、「ギャンブル依存症」など今日的な課題に対応するための先進的な取組事例等の情報共有が示されている。</p> <p>大変重要な項目であると考えます。ギャンブル依存症は、自分の努力だけでは回復することが困難であり、家族や周囲からの支援、そして治療が必要である。ストレス発散等気軽にはじめて、依存状態となり、生活や仕事にも影響が出るなど厳しい状況になる場合がある。</p> <p>ぜひ、依存症になる前に、やめるよう、啓発を強化していただくと共に、各種ギャンブル依存の可能性のある施設では、利用への注意喚起等啓発も行っていただけのように、取り組みを進めて頂きたいと考えます。</p>	<p>ギャンブル依存症については、「予防」、「相談・治療」、「再発防止・社会復帰」の各段階において、シームレスな対策が必要であり、ご指摘のとおり、特に依存症に陥る手前で食い止める「予防」が非常に重要と考えています。</p> <p>ご意見を踏まえ、このたび改定した広域医療分野における施策指針となる「関西広域医療連携計画」には、ギャンブル依存症の「先進事例の横展開」や「普及啓発」を盛り込んだところであり、本計画に基づき、引き続き取組を進めてまいります。</p>

番号	標題	意見要旨	関西広域連合の考え方・対応
5	警報発令時の小中高生徒の下校及び園児のお迎え時の安全確保について	<p>令和5年6月2日に和歌山県内において登校後、大雨、河川洪水警報が発令され、小中高生徒たちが、大雨の中を下校していた様子を心配した住民の声があった。</p> <p>ある小学校では、学校から保護者に「給食を食べて帰る用意をします・11時30分頃お迎えに来て下さい」と連絡があり、また、ある保育園では、警報発令を受け、お迎えの連絡が入り、冠水した道路を幼い2人の子を抱え、帰宅せざるを得ない保護者もおられたそうで、大変恐怖だったとの声もあった。</p> <p>この日、お昼頃和歌山県内に線状降水帯が発生し、緊急安全確保「警戒レベル5」が発令されていた。</p> <p>気象観測は、私たちが子育てしていた30年程前とは格段の進歩が見られるが、冠水した道路を下校させる警報時の対応は、ほとんど当時と変わっていないように思う。</p> <p>身の安全確保が叫ばれる中、今の風雨水害に合わせた最大限の安全確保の対策が必要ではないか。</p>	<p>各学校におきましては、学校保健安全法によりまして児童生徒等の安全の確保を図るために、学校の実情に応じた危険発生時の対処要領を作成し、同要領等に基づき、児童生徒等の待機、保護者への引き渡し等を判断します。</p> <p>児童生徒等の対応については、気象庁が発表する情報だけでなく、各自治体が発表する避難情報も重要な判断基準になると考えられるので、関西広域連合としては、関西防災・減災プラン(風水害対策編)に基づき、市町村に対し、避難指示等の発令に資する情報収集や情報提供等に努めるとともに、関西広域連合として、登下校時の児童の安全確保の徹底につきまして、各構成団体に対して促してまいります。</p>
6	大阪・関西万博に向けて渦を巻く	<p>2025年に開催される大阪・関西万博は、ハブとなる大阪を中心に関西広域連合が取り囲むようになっている。</p> <p>関西全体で、万博を盛り上げ関西広域連合が渦を巻き人の流れを作る。特に食に関して関西は、宝庫であり自慢できることである。それぞれが、SNSを活用したPR戦略に取り組んでいく。</p>	<p>SNSを活用したPRについては、関西広域連合はじめ各府県市においても取り組んでいるところであり、関西全体で大阪・関西万博を盛り上げ、関西各地に人の流れを作っていけるよう、今後、更なるPR活動を積極的に行ってまいります。</p> <p>また、万博会場内での催事等でも食を含めた関西の魅力を大いに発信してまいります。</p>

番号	標題	意見要旨	関西広域連合の考え方・対応
7	大阪・関西万博の開催を見据えた、ダイバーシティ推進強化	<p>大阪・関西万博は、一人ひとりが互いの多様性を認め、「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現を目指しているが、これはSDGsが掲げる「誰ひとり取り残さない社会の実現」や、21世紀職業財団の理念「多彩な力が活きる社会に！」にも重なる。</p> <p>大阪・関西万博には、国籍・性別・年齢などの多様な属性、障がい者やLGBTQ(性的マイノリティ)などの当事者や家族、友人知人たちが多数参加するため、「多様性を尊重し、すべての人が歓迎される」というメッセージを具現化するための施策を実現することが求められる。</p> <p>開催まであと1年半と迫り、課題も少なくないが、建物のバリアフリー化やトイレ・休憩室などの環境整備等のハード面のみならず、Equity(公平)の観点を加えたDEI(ダイバーシティ、イキティ&インクルージョン)精神の醸成、無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)の払拭など多様性理解を促進するテーマを選定し、研修会など学びの機会を付与し、主催者である全ての関係各位のマインドセットを図ることが重要だ。</p> <p>多様な人たちをおもてなしする心の醸成に努め、すべての人たちがいきいきと生きる未来を実感できる万博を実現するとともに、続く「ワールドマスターズゲームズ2027関西」、その先の関西の発展に向けて、多様な人々が集まり、つながりを大切にする関西を創っていききたい。</p>	<p>大阪・関西万博における多様性理解の促進については、地球的規模の課題の解決に向けて英知を持ち寄り、対話による解決策を探る取組である「テーマウィーク」のテーマ領域に位置付けられており、取組が進められようとしています。</p> <p>多様性の理解促進に向けた取組がより一層進められるよう、会場内・外でのテーマウィークのプログラムをはじめ、ハード面の整備も含めて、博覧会協会に呼びかけてまいります。</p>
8	関西広域圏の大胆な変革を提言することが役割	<p>関西広域連合の機能・役割は、府県など構成自治体の拡大版としてではなく、広域圏自治体として「独自」のスタンスから計画や政策を提案することにある。自治体が手をつけなかった(見て見ぬふりをしてきた)領域、さらには関西の将来ビジョン実現に向けて既往の枠組みにとらわれない大胆な提案を繰り返し出していくことが必要。既往自治体の意思決定が否応なく既存システムに依拠し、場合によっては既得権益優先型になっていることを鑑みると、関西広域連合としてはこれまでの延長や小手先の施策から脱皮し、大胆な変革・改革の展望を打ち出すことが求められていると思われる。</p>	<p>次期広域計画策定に向けてすでに協議を始めている「広域計画等推進委員会」において、急速に進む人口減少などの社会的諸課題に対し、関西広域連合の果たすべき役割を次期広域計画にどのように盛り込むかについてご議論いただくなど、府県域を越える全国唯一の広域自治体として、関西広域連合の更なるバージョンアップに向けた検討を進めているところです。</p> <p>引き続き、経済団体や市町村、外部有識者などのご意見を幅広く伺いながら、これまでの延長ではなく、より長期的な展望に立った未来志向の「将来ビジョン」を打ち出せるように検討を進めてまいります。</p>

番号	標題	意見要旨	関西広域連合の考え方・対応
9	水上警備隊を配置し水上レジャー違反行為の取り締まりを	<p>昨年(2022年)から今夏(2023年)にかけてジェットスキー利用者のマナーが悪く死傷者が出ている。水上警備隊の配置、違反行為の取り締まりをお願いしたい。</p> <p>令和4年9月に当協議会で規制強化を提案し、各府県でも安全対策を図っていただいた。しかし、気候変動が悪化し熱帯気象に見舞われた今夏は水上レジャー人口が増加した。関西広域の府県なりのマナー向上に取り組んでいるが、追いつかない模様である。今後も水上レジャーの利用者が多くなりそうなので、危険行為や事故または不測の事態に関しては、厳しい行政処分が妥当だと思う。</p> <p>あわせて、海、湖、川など水上事故もキャンパーや水遊び客、観光客の増加傾向で発生頻度が多発している。不測の事態を想定した訓練と規制の強化、ドローンや定点カメラ監視を実施するなど現状把握と事故回避策をお願いする。</p>	<p>海や湖、河川等での危険操縦は全国的に共通する課題であるため、法律で刑事罰の規定を設けることや、免許取得時等の教習・講習を強化することについて、国に対し要望しているところです。</p>
10	規格外農作物活用の仕組みづくりについて	<p>今年(2023年)の夏は厳しい暑さで梨が不作だったと聞いた。売り物に出来るサイズまで梨が大きくなり、処分したり畑に戻したりしているようである。</p> <p>市場に流通できるサイズに満たない農作物は、安価で販売してしまうと値崩れが起き、適正サイズの商品が売れなくなってしまうので流通させないようである。</p> <p>今年の夏や梨に限らず同様のことが起きていると思う。余剰していたり、味は良いがサイズや形が基準に満たないなどで売り物に出来ない農作物を、関西広域連合のネットワークを使い、各地にあるフードバンクや子ども食堂などにまわす事は出来ないか。</p>	<p>規格外農作物の多くは加工品の材料として活用されており、農業者が府県域を越えて商工業者等と連携できるよう、各府県で実施されている異業種交流会等の情報を関西広域連合ホームページ等で発信しています。</p> <p>また、フードバンク等については、食品ロス削減の啓発イベント等に併せて先進事例の紹介などを行い、取組の横展開を進めているところです。</p> <p>今後とも構成府県市で情報共有を図るとともに広報・啓発を行うことで、地域の実情に応じた規格外農作物の活用を進めてまいります。</p>
11	若者世代の関西広域連合施策への参画推進を	<p>今後も継続した形で、若者世代の意見を関西広域連合の政策に活かすことを目的に、関西広域連合域内の大学生等からの政策提案を募集し、構成府県市若手職員等との意見交換会を実施して欲しい。これまでに平成28年徳島県からスタートし鳥取県、滋賀県、兵庫県、2回オンライン、和歌山県と開催している。</p> <p>今一度、若者世代へ向けての広域連合施策の見える化と広聴機能の充実化そして参画実現へより繋げて欲しい。また、構成府県若手職員の刺激にも意見交換を通じて繋がって欲しい想いである。</p>	<p>令和5年度は、「大阪・関西万博の開催を契機とした『担う関西』・『動く関西』・『つながる関西』の創造」をテーマに提案された政策について、6大学8チームの学生と協議会の青木委員、浦尾委員、佐野委員、開催地の鈴木京都府副知事、そして三日月広域連合長など審査員との間で活発な意見交換が行われました。</p> <p>さらに、意見交換会後の交流会においては、万博に関するアイデアやその他様々なトピックについて学生とフリーディスカッションが行われたほか、構成団体の若手職員も交えて懇談するなど、学生及び関西広域連合双方にとって有意義なものとなりました。</p> <p>本意見交換会は、広域連合にとって、若者の意見を聴く貴重な場となっており、施策の見える化や広聴機能の拡充、ひいては、若者世代の施策参画へとつながるものと考えており、今後も継続して実施してまいります。</p>

番号	標題	意見要旨	関西広域連合の考え方・対応
12	関西広域連合のPR	<p>委員になり、広域連合のホームページを見ると、一般の方が見ても役に立つ項目が色々あるが、一般の方はほとんど知らない。</p> <p>広域連合は知事や市長の集まりと思っている方がほとんど。どうしたらPRできるか、考えたい。</p>	<p>X(旧ツイッター)やFacebookといったSNSを情報のゲートウェイとして活用し、SNSを閲覧した方を広域連合のホームページへ誘導できるような形での情報発信を行っています。SNSでは、委員(知事・市長)が集まる会議の情報だけでなく、一般の方が参加できるイベント等の情報も発信しており、今後とも広域連合の様々な取組を紹介してまいります。</p> <p>また、災害時の帰宅困難者対策などについては、広域連合のホームページのほか構成府県市のホームページからもアクセスできるよう連携して発信してまいります。</p>